

福岡市長賞

「税に感謝」

福岡市立東光中学校 2年
塩屋 萌々子

私が税金について興味を持つようになったのは、弟の交通事故がきっかけだった。先日、弟が運転した自転車と自動車と衝突するという事故が起きた。弟は頭を強く打ち意識もうろうとする中、近くの工場の方に救急車を呼んでもらった。私と母が現場に到着したときには既に救急車は到着しており、応急処置を行っていた。私と母もいっしょに救急車に乗り、病院へ向かった。子どもの頭をみてもらえる病院がすぐ近くになかったが、ちょっと探ただけで見つかり、十分ほど乗っているだけで病院に着くことができた。普段は三十分くらいかかるような場所だったのだが、救急車のおかげで三分の一の時間で行くことができたのだ。弟はすぐ検査された。処置がおくれていれば、手おくれになっていたようだ。こんなに速く処置がほどこされたのは、とても速く到着した救急車のおかげだった。そしてこんなにも速い救急車は、私たちが納めている税金で走っている。救急隊員を養成するのも税金でまかなわれている。あたり前に私たちが使うことができる救急車、消防車、警察、医療、ゴミ処理、信号機。私たちにとってあたり前でも、そうでない国の人達がいる。発展途上国の人達だ。井戸がなくてきたない泥水しか飲めなくて病気になる人。日本では治せる病気でも適切な処理が受けられなくて亡くなる人。犯罪を取りしまれなくて荒れる町。ゴミ処理が行われなくて溜まっていくだけの放置廃棄物。信号機がなくて増える衝突事故。日本では私たちが日ごろ納めてきた税金が、めぐりめぐって私たちの生活をより便利に、支えてくれているのだと実感した。国民一人一人がきちんと税金を納めて、その税金を国が発展して良くなるように、私たちが安全に安心して暮らせるように使われているのだ。これまで私は、税というものを深く考えたことがなかった。しかし今回の弟の交通事故によって、税金が私たちにもたらしてくれている安心と安全がどんなに幸せなことであるかが身にしみた。そして発展途上国にも目を向けることができ、救える命があるのに税金があるか無いかでこんなにも違うのか、と悲しくなった。自分が何かできることはないのか、と考えた。発展途上国へは遠くて、直接手助けすることはできないけど、まずは自分の置かれている環境に感謝して税金を納めることの大切さと、税金の正しい使い道を常に頭に置きながら行動していこうと思う。ここが日本じゃなかったら、あのとき弟は手おくれになっていたかもしれない。これからも自分が税金に助けられることはたくさんあると思うので、しっかり税金を納めていこうと思った。